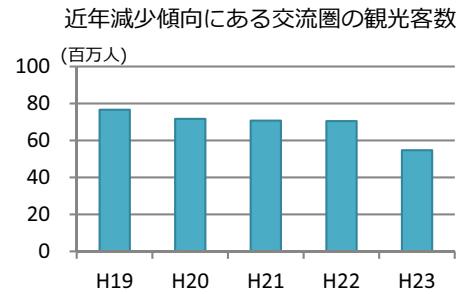


# 山梨長野交流圏域活性化計画 (事業区分：広域連携)

## 1. 長野県・山梨県の現状と課題

**【現状】**  
首都圏の西部に位置する山梨県、長野県は、自然、歴史、文化や食を始めとした多様な地域資源を有するエリアであり、古くから甲州街道で結ばれ、交流が盛んである。現在は、中央自動車道や国道20号等により、長野県の中南信地域と山梨県が結ばれている。

**【課題】**  
近年、山梨県と長野県中南信地域において、観光客数が減少傾向となっている。このため、広域にわたる活発な人の往来を通じた地域の活性化を図ることが重要となっている。



## 2. 計画の目標

巨大な観光需要を抱える首都圏の周辺部に位置する特性を活かし、中央自動車道、長野自動車道、中部横断自動車道、三遠南信自動車道から観光地へのアクセスを強化するとともに、山梨長野交流圏域において、豊かなくらしを実感できる、交流・連携した取組を通じて、魅力あふれる圏域づくりを進めていくことにより、交流圏の観光活性化を図る。

## 3. 事業の内容

- 【計画の期間】** 平成24年度～平成28年度 (5年間)  
**【事業実施主体】** 長野県 (山梨県と連携)  
**【計画の成果目標】**
- ・ 近年減少傾向にある山梨長野交流圏域における入込観光客の増減率 101.0%(H28)
  - ・ 長野県域内における入込観光客の増減率 101.0%(H28)

計画の成果目標	H24 (現況値)	H26 (目標値)	H28 (目標値)
近年減少傾向にある山梨長野交流圏域における入込観光客の増減率	54,874千人	55,148千人	55,423千人
長野県域内における入込観光客の増減率	41,796千人	42,004千人	42,214千人

- ※1 (入込観光客の増減率) = (評価時点の年間入込観光客数) / (H24の年間入込観光客数)
- 【事業の主な内容】**
- 基幹事業 : 道路改築事業20箇所
  - 関連事業 : -
  - 効果促進事業 : -

**【箇所数と事業費】**

	県		市町村	計	
基幹事業	20箇所	50.2億円	-	20箇所	50.2億円
関連社会資本整備事業	-	-	-	-	-
効果促進事業	-	-	-	-	-
計	21箇所	50.2億円	-	21箇所	50.2億円

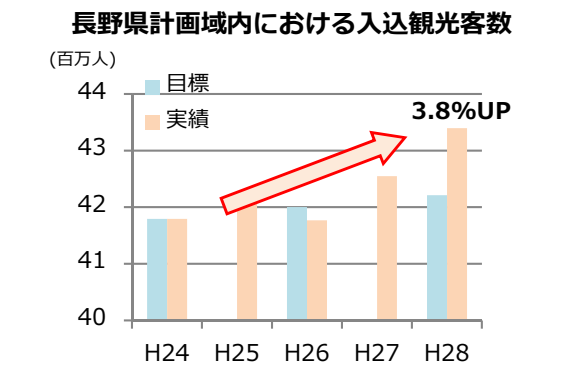
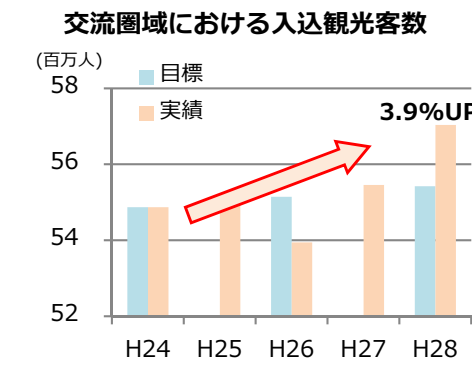
※事業費は精算額としているため、整備計画の事業費とは合わない場合があります

## 4. 事後評価の結果

**【目標値の達成状況】**

計画の成果目標 (最終)	H28 (目標値)	H28 (実績値)
近年減少傾向にある山梨長野交流圏域における入込観光客の増減率	1.0%増 55,423千人	3.9%増 57,041千人
長野県域内における入込観光客の増減率	1.0%増 42,214千人	3.8%増 43,398千人

※1 (入込観光客の増減率) = (評価時点の年間入込観光客数) / (H24の年間入込観光客数)



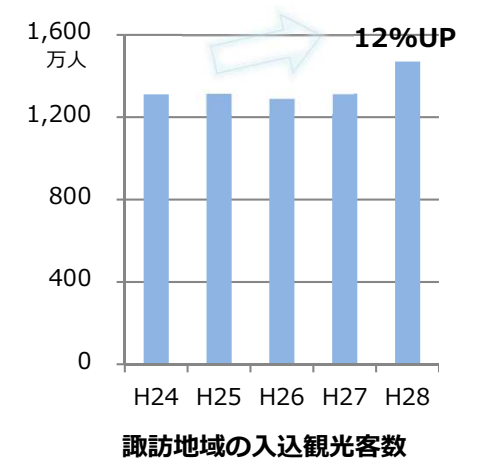
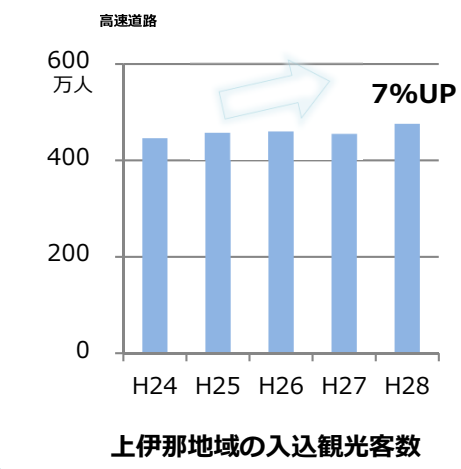
**■ 事業効果の発現状況**  
各観光施設において遊歩道整備やスポーツ、宿泊施設を利用したイベントの開催等により観光振興を図っており、広域連携事業の道路改築による支援を行った結果、交流圏域及び県内計画域内において観光客数が増加した。

## 5. 評価と今後の方針

地域の自発的な観光誘致活動と、それを支援する本計画による支援の効果がみられ、今後も地域の自発的な観光活性化に向けた取り組みを支援するため、平成29年度以降の継続計画においても地域の更なる発展を促す。

## 整備効果事例

事例 道路改築事業 (国) 152号 茅野市 杖突峠



### 整備効果

整備前

大型車とすれ違うと先が見えなくて危ない・・・



ICへ大型の流通車両が通行  
幅員が狭く安全なすれ違いが困難

整備前

大型車がはみだしてきて、すれ違いが危ない・・・



○諏訪地域と上伊那地域の観光地を  
行き交う多くの観光バスが通行  
○幅員が狭くすれ違い困難

整備後

道路の見通しが確保されました！



幅員狭小・線形不良区間を改良  
通行車両の安全を確保

整備後

道路が広がり安全になりました！



幅員狭小・線形不良区間を改良  
通行車両の安全を確保

## 広域的地域活性化計画の事後評価報告シート（1）

都道府県名： 長野県

計画の名称： 山梨長野交流圏域活性化計画

### 1) 事業の実施状況

計画の整備方針	事業区分	事業名	事業実施状況	事業未実施の理由
①拠点施設へのアクセス時間を短縮させ、周遊効率性を高める	基幹事業	(主) 諏訪辰野線（高島）	○	
		(主) 岡谷茅野線（大熊）	○	
		(一) 粟林宮田（停）線（大久保橋）	○	
		(主) 白馬美麻線（大左右）	○	
		(一) 与地辰野線（北大出）	○	
		(国) 148号（通～柳瀬）	○	
		(国) 152号（藤沢～長藤）	○	
		(国) 152号（杖突峠）	○	
		(国) 256号（幸助）	△	用地買収が遅れたため
		(国) 361号（末川～日義）	△	用地買収が遅れたため
		(国) 418号（藪地）	○	
		(主) 中津川南木曾線（馬籠峠～下り谷）	△	用地買収が遅れたため
		(主) 大町麻績インター千曲線（山清路）	○	
		(一) 千国北城線（楯池）	○	
		(国) 256号（虎岩）	△	用地買収が遅れたため
		(国) 418号（南和田）	△	用地買収が遅れたため
②拠点施設へのアクセス時の快適性を高める	基幹事業	(主) 松川インター大鹿線（渡場～滝沢）	—	他事業にて実施
		(一) 上松南木曾線（登玉～和村）	○	
③拠点施設やそのアクセスルート の安全性を高め、災害や事故 等によるリスクを低下	基幹事業	(一) 与地辰野線（羽場）	○	
		(主) 塩尻鍋割穂高線（塚原）	○	
④基幹事業と一体となってその 効果を一層高める調査、整備を 展開する	効果促進事業	山梨長野交流圏域観光推進事業	—	他事業にて実施

○：計画期間中に完成 △：計画期間終了後に完成見込み —：事業を中止

### 2) 目標の達成状況

計画目標	事業効果の確認方法	指標名	従前値	目標値	評価値
巨大な観光需要を抱える首都圏 の周辺部に位置する特性を活か し、中央自動車道、長野自動車 道、中部横断自動車道、三遠南 信自動車道から観光地へのアク セスを強化するとともに、山梨 長野交流圏域において、豊かな 暮らしを実感できる、交流・連 携した取組を通じて、魅力あふ れる圏域づくりを進めていくこ とにより、交流圏の観光活性化 を図る。	計画で定めた目標指標	①近年減少傾向にある 山梨長野交流圏域にお ける入込観光客の増減 率	(H24年) 54,874千人	(H28年) 55,423千人 1.0%増	(H28年) 57,041千人 3.9%増
		②長野県域内における 入込観光客の増減率	(H24年) 41,796千人	(H28年) 42,214千人 1.0%増	(H28年) 43,398千人 3.8%増
	その他の定性的な成果	・道路事業の完成により観光道路としてだけでなく、地元の生活道路として住民の安全な通行の確保に寄与できたと考えられる。			

## 広域的地域活性化計画の事後評価報告シート（2）

### 3) 目標達成・未達成への事業の効果の影響分析

事業効果の確認方法	計画で定めた目標指標		目標指標以外の成果指標	その他定性的な成果
	①近年減少傾向にある山梨長野交流圏域における入込観光客の増減率	②長野県域内における入込観光客の増減率		
事業効果の発現状況	①②各観光施設において遊歩道整備やスポーツ、宿泊施設を利用したイベントの開催等により観光振興を図っており、広域連携事業の道路改築による支援を行った結果、観光客数が増加した。 ①H24年：54,874千人→H28年：55,041千人（3.9%増） ②H24年：41,796千人→H28年：43,398千人（3.8%増）  ②県道与地辰野線の道路改築（交差点の改良）により、通過時間が最大10分短縮し、住民や観光客の円滑な交通が確保された結果、近隣の観光地で1.9万人の観光客の増加がみられ、観光産業の活性化に寄与したものと評価できる。			・道路事業の完成により観光道路としてだけでなく、地元の生活道路として住民の安全な通行の確保に寄与できたと考えられる。
外部要因の影響	①②目標値に対して実績値が大幅に上回る結果となった要因としては、平成28年には7年に1度の御柱祭が開催され諏訪地域の観光客数が平成24年と比較して12%増加していることが考えられる。			
目標達成・未達成の要因 (問題点の把握)	①②地域の自発的な観光誘致活動とそれを支援する本計画の実施の結果、観光客数が増加したと考えられる。			
目標の達成・未達成区分	S	S		
全体計画の総合評価	・地域の自発的な観光誘致活動とそれを支援する本計画の実施の結果、観光客数が増加した。また、道路事業の完成により観光道路としてだけでなく、地元の生活道路として住民の安全な通行の確保に寄与できた。			

S：計画推進による効果が確認され、評価値も目標値を上回った  
 A：計画推進による効果が確認されたが、評価値が目標値には達していない  
 B：計画推進による効果が確認できなかったが、評価値が目標値を上回った  
 C：計画推進による効果が確認できず、評価値も目標値には達していない

### 4) 事後評価の手続き

実施体制・実施時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>「長野県建設部社会資本総合整備計画評価実施要領」に基づき実施する。</li> <li>整備計画の交付期間の最終年度に予定しているすべての要素事業が完了した後、速やかに実施する。（翌年度へ繰り越す要素事業がある場合は、当該事業が完了した後、実施する。）</li> </ul>
結果の公表方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>長野県公式ホームページ「Web site 信州」において公表する。 URL：<a href="https://www.pref.nagano.lg.jp/gi_jukan/infra/kensetsu/shisaku/documents/kofukin.html">https://www.pref.nagano.lg.jp/gi_jukan/infra/kensetsu/shisaku/documents/kofukin.html</a></li> </ul>



## 広域的地域活性化計画の事後評価報告シート（3）

### 5) 今後の活性化方策の検討

#### ①未達成目標の改善方策

計画で定めた目標指標	目標の達成状況	改善方策
近年減少傾向にある山梨 長野交流圏域における入 込観光客の増減率	S	
長野県域内における入込 観光客の増減率	S	

#### ②今後の広域的地域活性化方策

- ・地域の自発的な観光誘致活動とそれを支援する本計画の実施の結果、観光客数が増加しており、今後の計画においても観光客数の増減を地域の観光活性化を現す指標として設定する。
- ・今後も地域の自立的な観光活性化に向けた取り組みを支援するため、平成29年度以降の継続計画においても地域の更なる発展を促す。

### 6) フォローアップ

計 画 目 標	フォローアップが必要な目標指標	フォローアップ時期	フォローアップの公表方法

## 参考資料：事後評価におけるチェック項目

### I. 事後評価の内容

①事業の実施状況	チェック欄
事業（基幹、提案、関連）の実施状況が明らかにされている。	■
拠点施設及び重点地区における拠点施設整備事業については、基幹事業の一体性が確認されている。	■
当初見込んだ事業効果の発現状況が明らかにされている。	■
拠点施設の整備を伴う計画の場合（法第2条第3項第1号）、当該事業が実施された。	■
他の事業との連携等による、相乗効果・波及効果について記載されている。	■
②目標の達成状況の整理	
広域的特定活動の状況を踏まえた目標の達成状況が記載されている。	■
指標・数値目標により、目標の達成状況が表現されている。	■
計画で定めた目標指標以外の成果指標について、指標・数値目標がわかりやすいものとなっている。	□
評価のわかりやすさや中立性を損なわない範囲で、指標・数値目標以外の方法によっても、目標の達成状況に関する評価がなされている。	■
事後評価の時点で目標指標の計測が困難な場合、フォローアップの実施時期が明確にされている。	□
目標の達成状況に影響を与える主な外的要因が把握・整理されている。	■
③目標の達成・未達成要因の分析、評価	
拠点施設が広域的特定活動の拠点としての機能を果たしている。	■
事業内容と指標・数値目標との整合性が確保されている。	■
地域資源の活用やハード・ソフトの連携等が図られている。	□
拠点施設での広域的特定活動が計画どおり実施されている。	■
民間事業者等の多様な主体との連携が図られた。	■
外的要因の影響を踏まえた評価となっている。	■
④今後の広域活性化方策の検討	
評価内容を踏まえた今後の改善策や更なる取り組みの方針が明確となっている。	■
今後の改善策や更なる取り組みの状況を明らかにするフォローアップの計画が示されている。	□

### II. 事後評価の手続き

第三者（学識者等）による評価委員会で検討されるなど、適切な体制で評価が実施されている。	■
交付金等の制度の効果的・効率的な活用を広く国民に明らかにし、また、分かりやすい方法で確認することができるよう、適切に公表がされている。	■

### III. その他

事後評価の内容と整合の図られた広域的広域活性化基盤整備計画が添付されているか。	■
---	---